

地域福祉ワークショップ実施報告と今後の取り組みについて

1 目的

令和2年3月に「みんなが支えあい、自分らしく暮らせるまち」を基本理念とした「中央区保健医療福祉計画2020」を策定し2年目を迎えた。また、令和3年3月には中央区社会福祉協議会が「第2期中央区地域福祉活動計画」を策定し、区と社会福祉協議会がより一層連携を強化して「地域共生社会」の構築を目指すこととしたところである。

定住人口の増加、就業形態や価値観の多様化に伴い、地域が抱える課題は多様化、複雑化しており、さらに新型コロナウイルス感染症の拡大により、本区においても社会的孤立や生活困窮、フレイルの進行など様々な課題が顕在化している。こうした状況の中、「みんなが支えあい、自分らしく暮らせるまち」の実現に向けては、行政による基盤の整備に加え、住民が主体的に地域生活課題の解決に取り組むことがより一層必要である。

そこで、区民の皆さんと地域福祉について考え、課題解決に向けた自由な意見交換を行う「ワークショップ」を開催し、参加者同士の横のつながりを深めるとともに、住民が主体的に地域生活課題に取り組む地域づくりを推進する。

2 主催

中央区・中央区社会福祉協議会

3 開催状況

地域	日 時	会 場	参加者数
京橋	令和4年3月9日(水) 午後6時00分～	京橋プラザ区民館 多目的ホール	11人
日本橋	令和4年3月25日(金) 午後2時00分～	日本橋公会堂 第3・4洋室	12人
月島	令和4年3月23日(水) 午前10時30分～	月島社会教育会館 ホール	16人

4 当日のスケジュール

1. 開会・あいさつ (2分)	事務局挨拶
2. オリエンテーション (5分)	●プログラム説明 ●地域福祉ワークショップの目的
3. 講演 (30分)	「中央区の地域福祉を考える」 ●講師：駒澤大学 文学部教授 川上 富雄 氏

4. グループワーク (80分) ①話し合い (50分) ～休憩 (10分)～ ②発表 (10分) ③総括 (10分)	グループごとに、「見守り」「居場所づくり」「地域の担い手の養成」「潜在したニーズへの対応」のうちいずれか1つまたは複数のテーマで話し合いを行う。 ●ファシリテーター： 駒澤大学 文学部教授 川上 富雄 氏 ●サポーター：中央区社会福祉協議会 職員 ①各グループのテーマに沿って話し合う。 ②各グループで話し合った結果を発表。 ③ファシリテーターからコメント、アドバイス。
5. おわりに (2分)	事務局挨拶
6. 閉会	閉会

5 グループワークの進め方

各グループに3名から4名の参加者と、サポーター役として中央区社会福祉協議会職員を配置し、テーマに沿って、意見交換・集約を行った。

- ① 自己紹介をする。
- ② 「司会」役を決める。
- ③ グループで話し合う「テーマ」を決める。

(テーマ)

- ア **見守り**：見守りでだれも孤立しない安心して暮らせる地域を作ろう
 イ **居場所づくり**：だれもが安心できる居場所をつくろう
 ウ **地域の担い手の養成**：だれもが参加しやすい地域活動をすすめよう
 エ **潜在しているニーズへの対応**：支援を求めない方へのアプローチを考えよう

(話し合いのヒント)

ア 見守り ：見守りでだれも孤立しない安心して暮らせる地域をつくろう	
地域の困りごとや心配事	・地域の困りごと、心配事は？ ・地域で見守りが必要な人とは？
日頃の活動のこと	・見守りでうまくいったこと（いかなかったこと）
地域でできること	・こうすればうまくいく！アイデア、提案 ・どのような見守りのしくみがあるとよいか？
自分にできることや必要なこと（もの）	・アイデア、提案を実現するために自分にできることは？ ・必要なこと（もの）は？活動？サービス？人？場所？

イ 居場所づくり：だれもが安心できる居場所をつくろう	
地域の困りごとや心配事	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の困りごと、心配事は？ ・居場所が必要な人とは？
日頃の活動のこと	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな居場所があるか？ ・居場所をつくってうまくいったこと、苦労したこと
地域でできること	<ul style="list-style-type: none"> ・こんな居場所があるとよい！アイデア、提案
自分にできることや必要なこと（もの）	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデア、提案を実現するために自分にできることは？ ・必要なこと（もの）は？活動？サービス？人？場所？

ウ 地域の担い手の養成：だれもが参加しやすい地域活動をすすめよう	
地域の困りごとや心配事	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の困りごと、心配事は？ ・担い手が不足している要因は？
日頃の活動のこと	<ul style="list-style-type: none"> ・やってよかった（残念だった）と思う地域活動 ・参加してよかった（残念だった）と思う地域活動
地域でできること	<ul style="list-style-type: none"> ・こんな活動があるとよい！アイデア、提案 ・どのような担い手養成のしくみがあるとよいか？
自分にできることや必要なこと（もの）	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデア、提案を実現するために自分にできることは？ ・必要なこと（もの）は？活動？サービス？人？場所？

エ 潜在しているニーズへの対応：支援を求めない方へのアプローチを考えよう	
地域の困りごとや心配事	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の困りごと、心配事は？ ・潜在しているニーズとは？・なぜ支援を求めないのか？
日頃の活動のこと	<ul style="list-style-type: none"> ・早期発見や継続的な支援につながった（つながらなかった）活動
地域でできること	<ul style="list-style-type: none"> ・こんなアプローチができる！アイデア、提案
自分にできることや必要なこと（もの）	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデア、提案を実現するために自分にできることは？ ・必要なこと（もの）は？活動？サービス？人？場所？

- ④ グループで決めた「テーマ」に沿って話し合い、模造紙にまとめる。
- ⑤ グループで話し合った意見を発表する。
- ⑥ ファシリテーターから総括コメントをいただく。

6 グループワークの結果

(京橋地域)

グループ① テーマ：潜在しているニーズへの対応

～今必要なのは、おせっかいの「目」！～
地域にはいろいろな人が住んでいる。見守り、気づきを大切にし、おせっかいでも相手を気にかけるということを、何より大切にしていきたい。

- 災害時に高齢者にどのように気づいてあげられるか
 - ・マンション内の高齢者を把握するにはどうしたらよいか。
 - ・マンション内の防災について、居住者にもっと関心を持ってもらいたい。
- 気にかけること、おせっかいの必要性
 - ・あの家は大丈夫か、あの人は大丈夫か、という視点を持つことが大切。
 - ・おせっかいと思われても、相手を気にかける、見守ることで、日頃の変化に気づき、困りごとにも気づくことができる。
 - ・防災訓練に参加した方に連絡先を聞くなど、ちょっとしたきっかけを大切に、困りごとを聞いてみてはどうか。
 - ・相手にいやだと言われても、声をかけ続けることが大切。
 - ・マンションの外での出会いも大切。
 - ・いろいろなところに見守りの目があると良い。

グループ② テーマ：見守り

～目指すゴールは世代を超えたつながり！～
中央区には幅広い世代の方が住んでいる。
子ども・子育て世代から高齢者まで、幅広い世代がつながっていける地域にしたい。

- 見守りの難しさ
 - ・地域にどうつながっていけばよいか分からない人もいる。
 - ・個人情報の取得が難しい。
 - ・地域の人々の顔が分からない。
 - ・地域には関わりたくない人もいる。
 - ・町会の人員不足、高齢化などにより地域の力が弱まっている。
- 見守りのヒント
 - ・挨拶をすることが大事。
 - ・気軽に参加してみようかなという小さなコミュニティ、茶話会があると良い。
 - ・映画会、写経のようなものがあると良い。
 - ・関わりたくないという人も誘ってみることが大事、それがきっかけで繋がりができることもある。
 - ・子育て中の親子の居場所を作ってあげることも大切。
 - ・コミュニティづくりにはそのネーミングも大事。印象的で参加しやすい、キャッチーな名前を考えることが意外と大切。
 - ・活動を通して地域住民と信頼関係をどう構築していくか。こうした活動を継続しながら、世代を超えたつながりを目指していく。

グループ③ テーマ：地域の担い手の養成

～長引くコロナ禍、できることをみんなで考え、活動を継続すること！
それが担い手の養成につながる～
人がいないなら、いる人が担い手になるしかない。楽しさ、やりがいが一番大切。
これからの時代、担い手への報酬も必要ではないか。

●地域特性

- ・昼間人口が多く、夜間人口が少ない。
- ・小中学校がない。
- ・大きいマンションが少ない。

●情報の必要性

- ・情報社会、情報の伝達が不可欠。
- ・回覧板やポスターといった古くからある方法に加え、SNSやQRコードといった新しい方法もある。

●関わり方

- ・お祭りやイベント、季節感のあるイベントによってチームワークや関わりができていく。
- ・楽しさややりがいが一番必要。
- ・地域の人、小中学校の関係者、PTAなどの手助けが必要になる。

●行政の支援

- ・これからの時代、担い手への報酬も必要ではないか、行政に検討をお願いしたい。

●担い手養成のために

- ・これからはコロナ禍で何ができるかをみんなで考えていくことがテーマになる。
- ・地域の活動を継続することが担い手の養成につながるのではないか。

(日本橋地域)

グループ① テーマ：潜在しているニーズへの対応

～社協や社協の関係者をうまく活用する～
それぞれ異なる悩み事や困りごとを抱えている。困ったときに助けてくれたのは社協だった。

●潜在しているニーズとは何か

- ・そもそも潜在しているニーズとは何かが疑問。

●自分たちに何ができるのか

- ・長年地域で生活しており、言うことを聞いてくれない人に対し、何をしたらよいのか。
- ・学校のイベントには子どもを連れていくことができない。学校のルールでだめといわれてしまう。
- ・それぞれ、悩み事や困りごとを抱えている。

●社協とつながる

- ・困ったときに助けてくれたのは社協だった。

- ・制度やサービスと同様に、社協の存在を知らない人も多いのではないかな。
- ・社協や社協の関係者をいかに利用するかがポイントだろう。

グループ② **テーマ：地域の担い手の養成**

～遊びを通して相手のことを知る～
 それぞれ異なるコミュニティを持っている。遊びなどをきっかけに相手のことを知れるとよいのではないかな。

- コロナ禍の影響
 - ・いきなり訪問することが難しくなった。
 - ・携帯電話の番号を伝えたところ、LINE でつながることができた。
- 地域特性・変化
 - ・地元で生まれ育った人たち、結婚をきっかけに越してきた人とではコミュニティが異なる。
 - ・子どもは増えたが、親を知らないので声をかけられない。
 - ・飲ミニケーションが足りない。遊びをきっかけに相手のことを知れるとよい。

グループ③ **テーマ：見守り**

～大切なのはつながるためのきっかけづくり～
 コミュニケーション（会話）や食事、防災訓練、繰り返しの訪問を通じてつながるきっかけとしたい。

- 見守りとは何か
 - ・そもそも見守られたくない人がいる。
 - ・お祭りも見守りになるが、お祭りを「うるさい」という地元の人もある。その人たちに対し、お祭りの重要性を伝えることは、つながるきっかけとなる。
 - ・相手に手紙を出しても返ってこない。
 - ・民生委員を知らない人もいる。
- つながるきっかけ
 - ・美味しい食事や祭り。
 - ・社協もきっかけづくりを行ってくれる。
 - ・マンションの管理人や民生委員と話をすることで、マンション全体のこともわかるかもしれない。
 - ・防災訓練でもマンションの中を知ることができる。
 - ・繰り返しの訪問することで、家に入れてもらえたという話も聞いた。
 - ・民生委員自身も、つながるきっかけを持つことを難しく感じているとも話していた。

(月島地域)

グループ① テーマ：見守り

～勇気を持ち声をかけに行く！～

まずは顔を覚えてもらい、名前は知らずとも見たことのある人だと気づいてもらえるよう、地道に努力することが大切である。

●見守りが難しいケース

- ・マンション内の見守り。
- ・戸建ての人の見守り
- ・高齢で単身生活をされている方の見守り。

●対応について

- ・結論はなかなかでていない。
- ・ベンチに座り、話ができるところがあるとよい。
- ・まずは声をかけ、顔を覚えてもらうところから地道に努力するしかない。

グループ② テーマ：潜在しているニーズへの対応

～町会・自治会が楽しいことをPRする～

社会資源を把握するには地域に入り込むことが一番だが、入り口がわからない。いろいろな広報紙や媒体を使い、各世代に情報が届くとよい。

●社会資源について

- ・知らないだけで地域に存在している。

●町会・自治会

- ・情報を得るには町会・自治会に加入するのが一番かもしれないが入り口がわからない。
- ・つまらなさそう、面白くなさそうという印象を持っていた。
- ・意見交換を通し、楽しそうだったので参加してみたい。
- ・興味を持っていても、アクセスや実態がわからないことが、地域に入り込めない壁となっている。
- ・町会・自治会が楽しい活動であることを、いろいろな広報紙や媒体により各世代に届くよう作戦を練れるとよい。

●イベントの開催

- ・ドイツのライン川で開催されているイベントを墨田川でやったら面白いのではないかな。
- ・イベントを通し人が集まれば、今まで関わったことのない人との交流ができるかも。
- ・イベントを通し、町会自治会が楽しい活動であることをPRできるとよい。

グループ③ **テーマ：潜在しているニーズへの対応**

～誰もが自分の意見を素直に言うことができる場をつくる～
場があることでコミュニケーションが生まれ、不安を共有することができ、
自治をつくることができるのではないかな。

●地域の課題

- ・出てきた意見はどこのグループとも共通していた。
- ・声かけや世代間交流の場が必要だが、コロナの影響もあり難しい。

●課題解決について

- ・問題提起は出てくるが、問題提起で終わってしまう。
- ・問題をどうするのが決まらず先に進めずにいる。
- ・地域に役立ちたいという思いを持っていても、活動につながっていない。
- ・担い手に向けたサポートが不足しているのではないかな。
- ・個人で動くのは難しい。

●解決に向けて

- ・社協や行政など様々な団体がコーディネーションされていない。
- ・団体が連携し、スキルや経験を積める場、人が集まる場をつくり、誰もが自身の意見を素直に言うことができるとよい。
- ・その中で浮かび上がってきたニーズを行政や社協により交通整備されるとよい。

●本ワークショップについて

- ・若い人にも参加してほしい。
- ・中高生に家族や地域に対する思いを聞くと、素直な意見が聞けるのではないかな。
- ・小学生もいればリアルな事情がわかるだろう。

グループ④ **テーマ：地域の担い手の養成**

～どんなことでも情報を発信してみんなに伝えていく！～
一人が責任を負うのではなく、みんなで分担して取り組んでいく地域に
したい。

●地域の問題

- ・コミュニティが希薄化している。
- ・民生委員の仕事は大変で負担も大きく担い手が少ない。
- ・民生委員自身も高齢化している。

●担い手の確保

- ・話をすると手伝うといってくれる若い人もいる。
- ・どんなことでも発信してみんなに知らせる必要がある。
- ・仕事内容も、一人で行うのではなくみんなで分担できるとよい。

●イベントについて

- ・お祭りやイベントが大きな力となっている。無くしてはいけない。
- ・住吉大社のお祭りは大きく、住民の生存確認もしているとの話を聞き驚いた。
- ・コロナ禍ではうまくいかないところもある。

7 講師講評

① 見守りの基本は「信頼関係・人間関係」

地域には見守られたくない人もいます。地域福祉活動の推進に当たっては、人間関係・信頼関係に基づく顔の見える関係が肝心である。

② 活動を見える化（情報発信）する

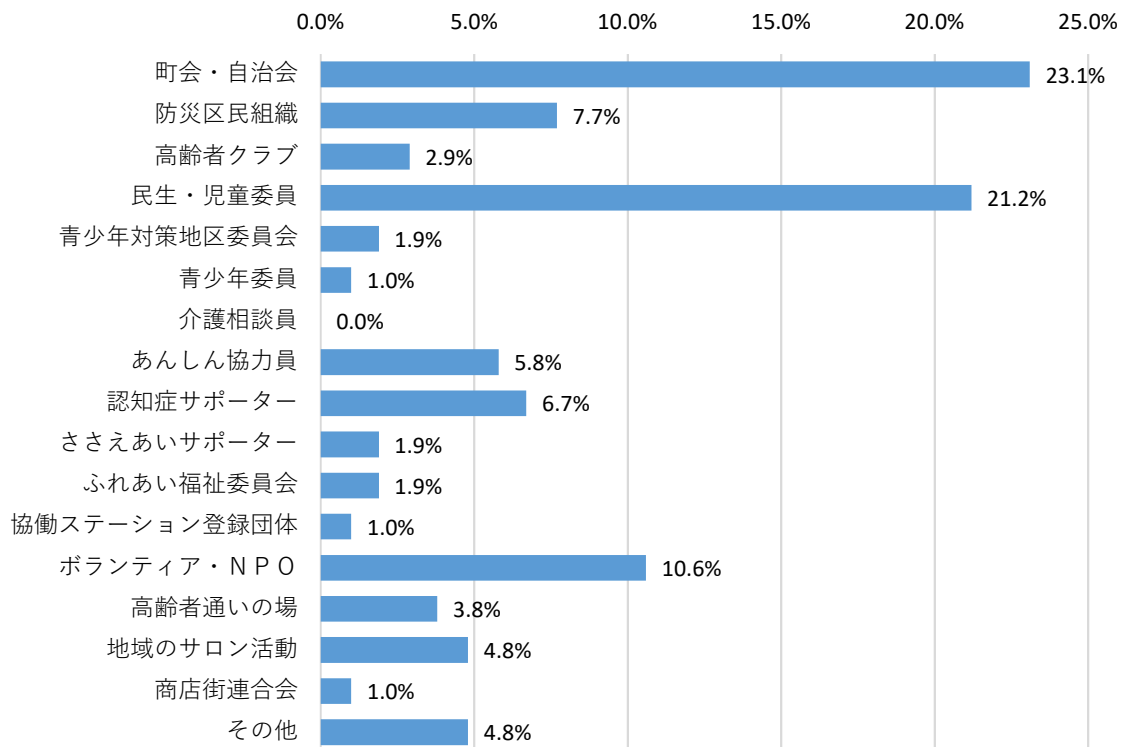
地域活動に興味はあるが入り方がわからない、民生委員や町会・自治会の活動は外から見てると大変そうとの意見が出ていた。地域活動への参加のきっかけ、民生委員や町会自治会の活動を伝えるためにも、様々な媒体や内容を工夫した情報発信が求められている。

③ 今後に向けて

今回出た意見はこの場で終わらせるのではなく、出された課題の解決に向けて継続して集まり話し合う仕組みを作ってほしい。話し合いの場づくりや、何かやりたいことがあれば社会福祉協議会に相談すれば形になると思うので、相談してはどうか。

8 アンケート結果

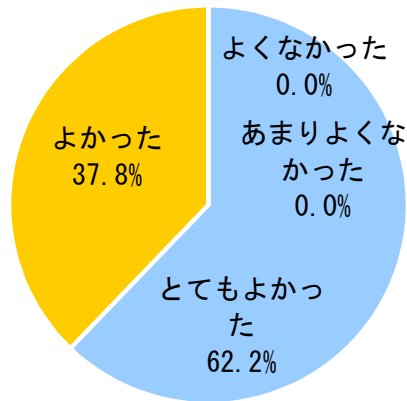
問1 どのような地域活動をしていますか（あてはまるものすべてに○）



【その他の回答】

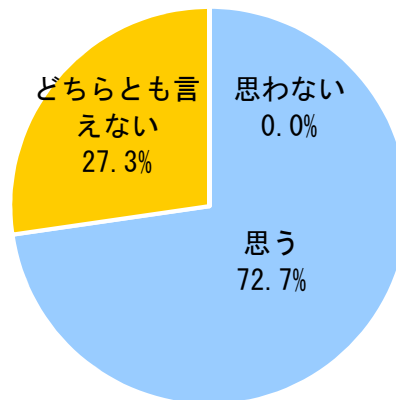
- ・虹のサービス
- ・ボランティアセンター
- ・小児科医
- ・すてっぷ中央
- ・自立支援協議会
- ・中央区ひとり親家庭福祉協議会

問2 地域福祉ワークショップに参加して、いかがでしたか。

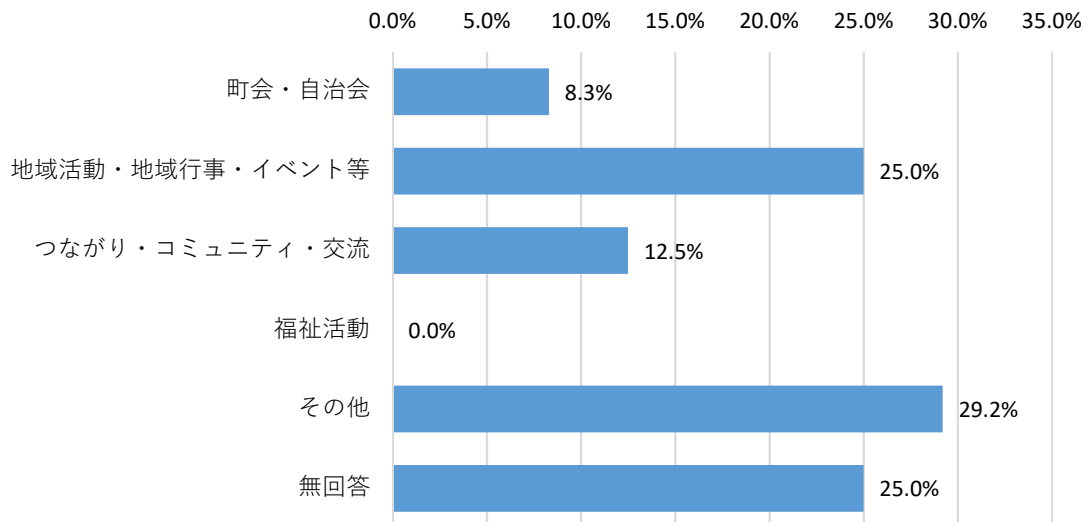


問3 質問2で3又は4に○をつけ方にお伺いします。
 そのように感じた理由についてお聞かせください。
 (該当者なし)

問4 今回の地域福祉懇談会は、今後のあなたの地域活動に活かせると思いますか。



問5 質問4で1に○をつけた方にお伺いします。どのような場面で活かせそうですか。



【具体的な回答】

○町会・自治会

- ・「中央区の地域福祉を考える」講演内容を再度学び直し、町会の活動をはじめ、人脈を活用し具体的な見守り活動を推進したいと思いました。
- ・町内活動（見守り・共助）

○地域活動・地域行事・イベント

- ・小さなイベントでつながりを作ること。善意・ボランティア精神に頼るのは難しい。価値の提供も必要。
- ・地域活動をしていく上でのヒントを沢山いただきました。
- ・どの方も同じ問題をかかえている事を感じた。今の活動を継続して行こうと思う。

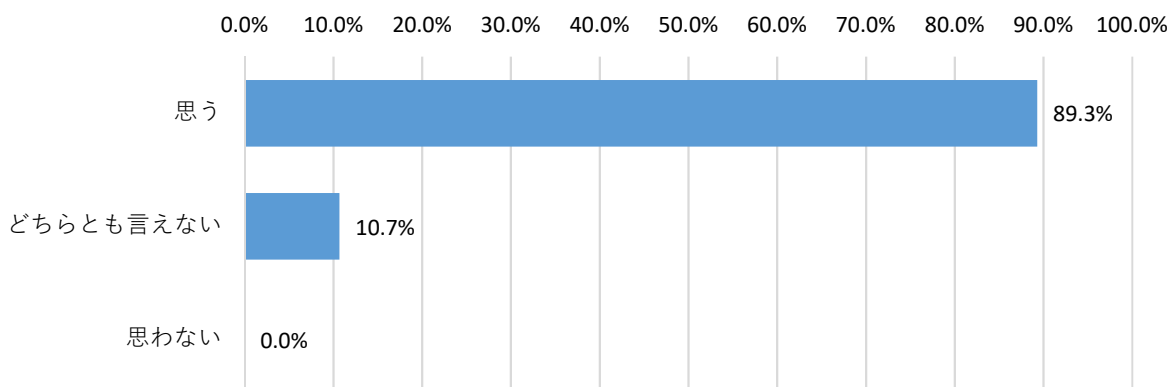
○つながり・コミュニティ・交流

- ・私だけは気づけなかった視点や意見を聞いて学びになりました。地域の方々と接する際様々な視点を大事にしていきたい。
- ・地道ではあるが声かけなど1人1人との信頼関係をつくる努力をしたらいいですね。
- ・皆さんとお話のできた事、月島地域でも佃、月島、勝どき、晴海でもそれぞれ地域が違い、改めて人とのつながりが大切であることを感じました。

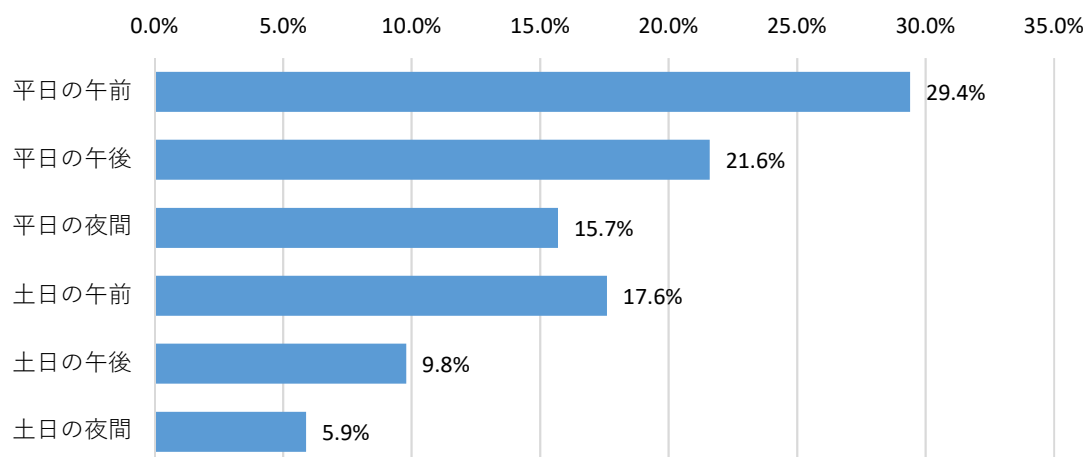
○その他

- ・近いところから少しずつ災害・防災対策を中心とした見守りを始めていきたいと思いました。
- ・色々なお話が聞いて良かったです。
- ・地域福祉に参加するための情報を知れたので具体的につながっていけることです。ありがとうございました。

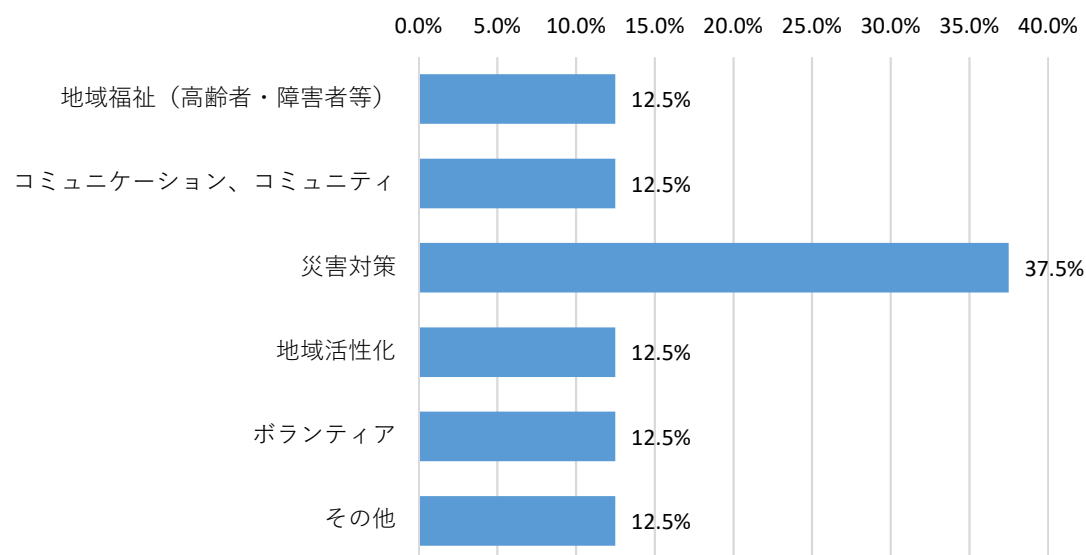
問6 今後、本日の地域福祉ワークショップのような、地域住民や地域活動者が集まって地域の課題を話し合ったり、交流したりする場（以下、「ワークショップ等」という。）があったら、参加したいと思いますか。



問7 ワークショップ等に参加する場合、どの時間帯だと参加しやすいですか。



問8 ワークショップ等に参加する場合に、話したい内容や興味のあるテーマなどがございましたらご自由にお書きください。



【具体的な回答】

- 地域福祉 (高齢者・障害者等)
 - ・障害者の就労問題。
- コミュニケーション、コミュニティ
 - ・政治への文句や愚痴は口まかせに言うのに、実際の諸施策や場づくりの工夫には関与したくないという人が多い中、必要な時にどこまで関わるのが良いのか、永遠のテーマのように思います。
- 災害対策
 - ・関係機関との情報共有、連携 (特に防災や教育と福祉)。
 - ・災害支援・防災のまちづくり。

- ・個別避難計画。
- 地域活性化
 - ・行政の事案でボランティアを行っているのに、実施が困難になった場合相談にのってもらいづらいので、困りごとの事例を共有できたらと思います。
- ボランティア
 - ・地域の担い手。
- その他
 - ・今は思いつきません。

問9 本日の地域福祉ワークショップ全体を通じて、ご意見・ご感想などがございましたらご自由にお書きください。

- ・町会関係の人達も参加して欲しかったので、声かけの工夫が何かできるといいかなと思いました。
- ・「京橋地域の特性を考慮した福祉教育について」を勉強していきたい。街づくりと福祉の連携を考えるためのデータを知りたい。
- ・民生委員の方が活発に動いてらっしゃることを知りました。地元の民生委員とも話してみたいと思います。
- ・災害時避難所にはペットを預かるケージが用意されるようになり、ペットを飼育されているご家庭にはご案内し、不安のないよう努めています。
- ・社会福祉協議会の人にはいつも色々お世話になっています。これからもよろしくお願いします。
- ・区役所と出張所以外の例えば「きらら」「おとしより相談センター」をはじめとして、様々な施設があることや、その場所を知らない人が想像以上に多いことを改めて感じた。その点の解決方法など考えていく工夫ができたと思います。
- ・地域住民の生活が多様化してきた中で意見交換は重要と思います。次回もよろしくお願いします。
- ・地域での役割等関わり方はまだまだ沢山の仕事があるということ。色々な方たちの考え方を聞いて良かったです。

9 成果と課題

① 成果

- ・グループでの話し合いを通し、地域活動に魅力を感じ実際に参加してみたいとの感想が寄せられたほか、新たな社会資源の把握につながったなど、参加によって視野が広がり、地域活動の可能性に触れる機会となった。
- ・地域活動は「横のつながり」が重要であり、ワークショップへの参加を通し参加者同士が顔見知りとなり、横のつながりを深めることができた。
- ・コロナ禍でこれまでの活動が難しくなってしまった、交流の場が必要だがなかなか難しいとの声も聞かれたが、コロナ禍で実際に行った地域住民とつながるための工夫を共有することで、今後の地域活動に向けたヒントを得る機会となっていた。

② 課題

- ・参加者より、ワークショップを開催して終了ではなく、その後のフォローアップ、状況の変化などを共有する機会が必要ではないかとの意見をいただいている。そう

した機会を今後設ける場合、参加者がどのような機会を求めているのか把握したうえで、情報発信や意見交換、交流などを目的とするフォローアップの必要性を検討する。

- 新たな地域活動の担い手発掘に向けて、情報発信の強化が課題との意見も寄せられた。地域活動に魅力を感じられるよう、様々な媒体を活用した情報発信、情報の見せ方にも更なる工夫が求められている。併せて、参加を後押しする機会としてワークショップの充実、様々な地域活動や社会資源の情報提供など、きっかけを用意する必要があるだろう。

●ワークショップの様子（参考）



講演「中央区の地域福祉を考える」（日本橋）



グループワーク（京橋地域 会場全体）



グループワーク（京橋地域）



グループワーク（日本橋地域）



グループワーク（月島地域）



発表（京橋地域）



発表（日本橋地域）



発表（月島地域）



総括（月島地域）



模造紙（京橋地域 グループ①）



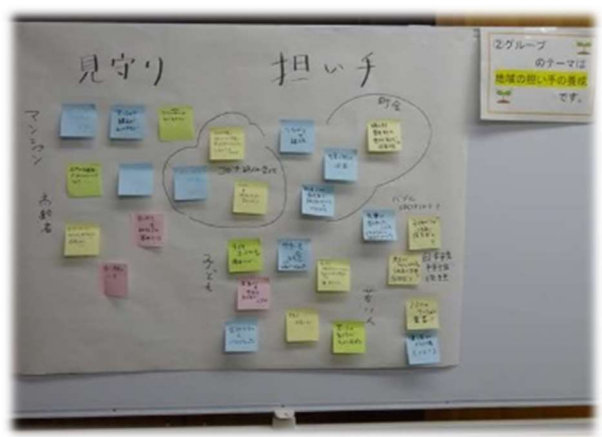
模造紙（京橋地域 グループ②）



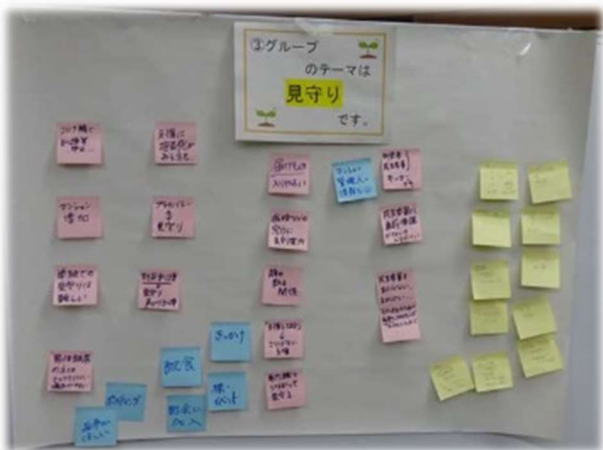
模造紙（京橋地域 グループ③）



模造紙（日本橋地域 グループ①）



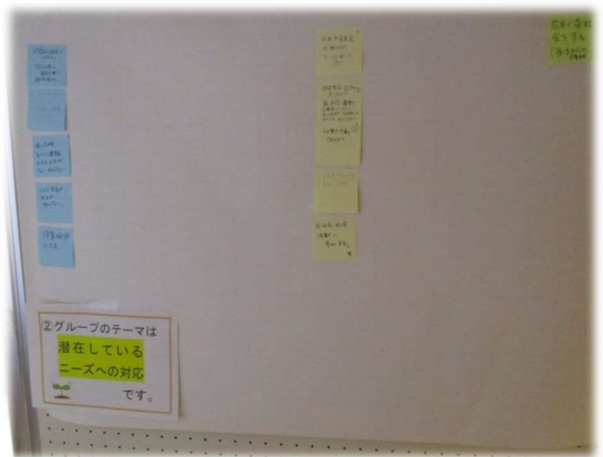
模造紙（日本橋地域 グループ②）



模造紙（日本橋地域 グループ③）



模造紙（月島地域 グループ①）



模造紙（月島地域 グループ②）



模造紙（月島地域 グループ③）



模造紙（月島地域 グループ④）

10 今年度の地域福祉ワークショップの開催について

① 時期

- ・京橋地域 令和5年2月17日(金) 午後6時30分から午後8時30分
- ・日本橋地域 令和5年2月1日(水) 午後2時00分から午後4時00分
- ・月島地域 令和5年1月25日(水) 午前10時30分から午後0時30分

② 会場

- ・京橋地域 区役所8階大会議室
- ・日本橋地域 日本橋公会堂 第3・4洋室
- ・月島地域 月島社会教育会館 ホール

③ 参加予定者

各地域25名程度(公募)

④ 講師・ファシリテーター

駒澤大学文学部社会学科 教授 川上 富雄 先生

⑤ サポーター

社会福祉協議会職員(1班に1名)

⑥ 主な内容

- (1) 講演「中央区の地域福祉を考える」
 - ・ 中央区の地域福祉の現状と課題
 - ・ 「保健福祉医療計画」、「地域福祉活動計画」の趣旨
- (2) グループワーク
テーマ「地域防災について考えよう～災害にも強い福祉のまちづくり～(仮)」
 - ・ 子どもから高齢者まで誰も取りこぼさないという視点のもと、課題の共有と対応策、「地域でできること」について意見交換を行う。
 - ・ 意見交換は4～6名の班ごとに分かれて行う。
- (3) 全体会(グループワークの結果を共有・講師総括)
- (4) 主催
中央区・中央区社会福祉協議会
- (5) 開催方法
地域ごとの特性が異なることや、住民に身近な地域で支えあいのしくみづくりを推進する観点から、行政区域(京橋、日本橋、月島)ごとの開催とする。

(6) 対象者

- ・ 地域で活動している方
（町会・自治会、民生・児童委員、青少年委員、ボランティア団体など）
- ・ 地域で活動してみたいと思っている方

(7) 参加者の募集

区のおしらせ、ホームページで募集するほか、各団体宛てに周知を依頼する。

(8) 保健医療福祉計画・地域福祉活動計画への反映

これまでと同様に、ワークショップの結果については報告書にまとめるとともに、地域カルテの更新や保健医療福祉計画・地域福祉活動計画の改定に反映するなど、中央区における地域福祉の推進に活用していく。